

第1学年 生活科学習指導案

指導者 秋田 秀雄
展開場所 アリーナ

- 1 単元名 あきとなかよし～たのしいあきいっぱい～
内容 (5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」

2 単元について

子どもの実態と思いや願い

本校の周辺には小さな公園がいくつかあるものの、季節の変化を存分に味わえるような緑の多い公園や広場が少ない。そのため、公園では遊具遊びやおにごっこをしたり、室内ではゲーム等で遊んだりする子どもが多く見られる。また、手作りで遊びを楽しんだり、植物や生き物と触れ合ったりする遊びの経験は乏しい。

入学後、子どもたちは春の公園へ探検に行き、春の芽吹く植物の色や香りを感じ、原っぱを跳びまわる昆虫を追いかけ命のいぶきを肌で感じながら、自然に触れて遊ぶ楽しさを味わってきた。

夏には、夏の暑さを感じながら、校庭の砂場で体全体で砂の感触を楽しんだり、友達と山やトンネルを作ったりした。また、シャボン玉遊びや水遊びを通して、日差しが反射する美しさや、冷たい水の心地よさに触れ、存分に楽しむ姿が見られた。そして、友達と一緒に関わりながら活動することによって、楽しさが増すことに気付いてきている。

秋遊びの経験についての問いには、「どんぐりゴマを作って遊んだよ。」「サツマイモ掘りで大きな芋を掘ることができたよ。」などと幼稚園や保育園での活動を楽しそうに答える子どもが多く見られた。そこで、子どもの思いや願いをもとに、活動を工夫しながら、諸感覚を使って秋を感じたり、遊んだりしながら秋の自然と親しめるようにしていきたい。また、落ち葉や木の実、草花などを生かし、自然と直接関わりながら遊ぶことを通して自然の不思議さや面白さに気付けるように、子どもの思いや願いを実現する体験活動や表現活動の充実を図っていきたい。

単元設定の価値

本単元は、小学校学習指導要領の内容(5)(6)と関わる。

ここでは、校庭や学校の周りで、木の実や落ち葉などで十分に遊びながら「秋」にどっぷりと浸り、おもちゃや飾りなどを作る。そこから、秋を楽しみながら、工夫して作り出した遊びの楽しさ、遊びに浸りきる心地よさを味わえるようにすることを目指す。そこで、小単元1では身近な自然に目を向け、繰り返し秋に関わる活動をし、体全体を使って秋を十分に味わえるようにする。小単元2では、身の回りの自然や身近にある物を使ったりなどして、おもちゃや飾りなどを作る。遊ぶことと作ることを一体的に取り上げるようにして、遊びを作り出す楽しさや夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。小単元3、4では、仲良くなった秋を振り返り、お気に入りの秋を友だちや年長児と共に「秋いっぱいワクワクランド」で楽しむ。活動後には、「秋の思い出」を自分なりにまとめ、身近な自然のよさや、自然と関わる楽しさに改めて気づき、自然を生かすことで自分たちの生活も楽しくなることに気付かせていきたい。

であい

通学路、校庭、身近な公園などで秋の自然をじっくりと観察したり、諸感覚を働かせて秋を感じたりする活動を行う。秋の自然と繰り返し関わることで、「もっと遊びたい。」「工夫して遊びたい。」などという思いや願いをもち、自分なりのめあてをもつことで見通しをもち、次の活動への期待が高まる。

ふれあい

身近な公園や実りの多い中学校での秋探しから自然と直接ふれあい遊ぶ活動を繰り返し行う。集めてきた落ち葉や木の実、草花を使って遊ぶ物を作り上げていく過程で「比べる」「試す」「工夫する」試行錯誤の活動を繰り返し行うことで、作る楽しさ、遊ぶ楽しさを実感するとともに自然の不思議さ、面白さに気付かせていきたい。

まなびあい

作ったものを使って遊びを工夫した後には、年長児と遊ぶ「秋いっぱいワクワクランド」で交流する。「一緒に楽しく遊びたい。」「年長さんを楽しませてあげたい。」と目的意識や相手意識をもった自主的な活動を行う。招待した人を楽しませるための準備や関わり方を考える活動を行う中で自分が伝えたい遊びのコツや遊び方が年長児に伝えられた喜びを味わうことで自分への成長に気付かせていきたい。

本単元での見方・考え方を生かす学びの姿

本単元では、秋の自然に触れ合う体験や、季節に応じて自分たちの生活を工夫する体験活動を行っていく。この活動では、諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり自分なりの思いや願いをもち、進んで自然と関わったりしていく。この体験から「この間、公園に来た時には、葉っぱが緑色だったけど色が少しずつ黄色くなってきたね。」と夏の様子と比べたり、「葉っぱも色が変わるように私たちの服も長袖になってきたね。」と自分との暮らしと関連付けて、気付いたことなどを深めていきたい。また、公園などで見つけてきた、落ち葉や木の実などを持ち帰ったりして遊びに使う物を工夫して作ったり、作ったものを使って遊んだりする活動の中で、「どんぐりはコマにできそうだから穴をあけて爪楊枝を刺したら回るんじゃないかな。」と見通しをもって考えながら試したり、「クヌギのコマの方が丸いから回りやすいんじゃないかな。」と予測しながら自らの思いや願いの実現に向けて工夫したりできるような学習活動を充実していき、気付きの質を高めていきたい。また、自分の気付きや思いを友達と伝え合い交流することによりこれまでの一つ一つの気付きが関連付けられていき、それを確かにする表現活動の中で深い学びへとつなげていきたい。そして体験を通して感動したことや喜びを振り返ったりまとめたりすることで、視点を変えて自分自身の成長や変容に気付けるようにしたい。

育みたい力

<資質・能力>

- A 諸感覚を働かせて感じ、見付けたり、比較したり、分類したり、関連付けたり対象を捉える力
- B 試行錯誤しながら対象を捉え表現し、創り出す力
- C 学んだことを取り入れ生活の中で役立てる力

<生活上必要な習慣・技能>

- ・ 道具や用具の準備、片付け、整理整頓する。
- ・ 遊びのルールを守る。
- ・ 必要な道具を使って遊ぶ、作る。
- ・ 公共物・自然を大切にする。

3 単元の目標

秋の自然に浸り、秋の自然物を使って作りたいものを作ったり、遊び方を工夫したりする活動を通して、季節の変化や自然と関わって遊ぶ楽しさに気付き、みんなで秋の遊びを楽しむことができるようにする。

4 単元の観点別評価規準

	A知識・技能	B思考・判断・表現	C主体的に学習に取り組む態度
単元における評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○諸感覚を働かせて自然の様子や四季の変化、季節によって自分たちの生活の様子が変わってくることに気付いている。 ○秋の自然を使って遊べた面白さや自然の不思議さを感じ取り、自分や、一緒に遊んだ友達によさに気付いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて考え、関わる方法を工夫しようとしている。 ○落ち葉や木の実などの遊びに使う物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然に関心をもち、それらと関わる活動を通して、自然を生かした遊びや生活をしようとしている。 ○自然に自ら働きかけ、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
小単元1	<ul style="list-style-type: none"> (1) 季節の変化や秋の様子に気付いている。 (2) 秋の草花や、木の葉や木の実を使って、工夫して遊ぶと楽しいことに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 見つけた秋を絵や文にかき表そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進んで秋のものを見付けようとしている。
小単元2	<ul style="list-style-type: none"> (3) 季節に合った遊びや活動をすると生活が楽しくなることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> (2) 秋の自然物を使って、自然や季節に関わる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (2) 作りたいものを決めて秋集めをし、進んで伝えようとしている。 (3) 進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。
小単元3	<ul style="list-style-type: none"> (4) 自分やクラスの友達が作ったものよさやがんばりに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> (3) 友達や年長児と楽しく遊べるように、試しながら、遊ぶものを工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (4) 友達と協力しながら年長児に進んで関わり、楽しもうとしている。
小単元4	<ul style="list-style-type: none"> (5) 秋の自然を使って、楽しむことのできた自分に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> (4) 秋の楽しかった思い出を自分の作品や言葉で表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> (5) 秋の楽しかった思い出を進んで伝えようとしている。

5 指導計画(26時間扱い)

小単元 (時数)	主な学習活動と内容	教師の働きかけ (○)	評価 (☆)
<p>一 あきとふれあおう 【1】 (8)</p> <p>く 秋をみつけよう</p>	<p>【小単元の目標】 諸感覚を使って秋の動植物を観察したり、葉や木々の実を集めたり、秋になって、校庭や学校の周りの自然の様子が変わっていることに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校で見つけた秋について知らせ合う。(1) ・校庭で秋見つけをする。(1) (家庭などで、落ち葉や木の実などを集める。)(常時) ・公園に行ってどんな秋が見つけられるか計画を立てる。(1) ・緑町中学校の校庭で秋集めをする。(1) ・緑町公園に行き秋を感じながら遊ぶ。(2) ・自分がやってみて楽しかったことを友達と紹介し合う。(1)【あのねタイム】 ・活動を振り返り、発見カードに書く。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校中などで見つけた秋やこれまで経験したことがある秋にまつわることを話し合えるように教科書の「あきごよみ」をきっかけにする。 ○一人が見つけた秋をみんなに紹介するなどして秋を増やし広めるようにする。 ○公園内での危険箇所を事前に確認し、安全に気をつけて活動できるようにする。 ○虫に刺されないように服装に気をつけるよう事前に家庭に連絡しておく。 ○カードに書いていることや発表したことを取り上げて友達や自分のよさに気付かせ、自信や満足感をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆進んで秋のものを見つけようとしている。(主) ☆季節の変化や秋の様子に気付いている。(知) ☆秋の草花や、木の葉や木の実を使って、工夫して遊ぶと楽しいことに気付いている。(知) ☆見つけた秋を絵や文にかき表すことができる。(思)
<p>二 あきとふれあおう 【2】 (11)</p> <p>く 見つけた秋で作ったり遊んだりしよう</p>	<p>【小単元の目標】 自分たちで集めた葉や木の実などの秋の自然を利用して、工夫しておもちゃをつくり、秋の自然を利用して遊ぶことのおもしろさや自然の不思議さに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西千葉公園に行き秋を感じながら遊ぶ。(2) ・もっとしてみたいことを考え、発表する。(1)【あのねタイム】 ・西千葉公園に行き自分がやってみたい遊びを楽しむ。(2) ・集めてきたどんぐりを使って作ってみたいものを発表し合う。(1) ・どんぐりを使ってもっと遊べる物を工夫して遊ぶ。(本時2/2) ・集めてきたものを使って、いろいろなものを工夫して作ったり遊んだりする。(2) + (図工2) ・楽しかった秋の遊びについて振り返り、発見カードに書いて友達に紹介する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で楽しかったことや友達を紹介したことでもっとやりたくなったことを話せるよう活動の様子を掲示する。 ○自然の中で、落ち葉や木の実を加工してその場で簡単なものを作るように道具袋を用意する。 ○集めて作りたい物が分かるように秋コーナーをつくり、写真や本をあらかじめ置いて見通しをもてるようにする。 ○教師も一緒に自分の作品を作り、子どもの活動に刺激を与えたり、子どもの気持ちを見取ったりする。 ○材料や道具は安全な使い方ができるように、何に使うのか表示し、事前指導しておく。 ○出来上がった子どもには、その作品を使った遊びや表現方法を考えるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆作りたいものを決めて秋集めをし、自分の見つけた秋を進んで伝えようとしている。(主) ☆季節に合った遊びや活動をする让生活が楽しくなることに気付いている。(知) ☆秋の自然物を使って、自然や季節に関わる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。(思) ☆進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。(主)

<p>三 秋 い っ ぱ い ワ ク ワ ク ラ ン ド に 年 長 さ ん を 招 待 し よ う (4)</p>	<p>【小単元の目標】年長児を招待して楽しんでもらえるように関わったり、楽しく遊べるような方法を考えたりして、一緒に遊ぶことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児を招待して「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ計画を立てる。(1) ・年長児と「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ準備をする。(図工4) ・年長児を招待して「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ。(2) ・「秋いっぱいワクワクランド」を振り返る。(1) 【あのねタイム】 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが作ったものを使って遊べるような場を工夫したり、楽しそうに遊んでいた友達の発表を聞いたりして、イメージをもたせる。 ○近隣の幼稚園や保育所と連携をとり、事前に打ち合わせをし、児童や園児の実態の共通理解を図る。 ○自分たちが作ったものを生かしたコーナーにするよう助言する。 ○どの子どもにも自分の役割があるようにする。また、相手の立場になって、遊びの準備を進めることを意識させるようにする。 ○年長児との関わりで工夫したことや、うまくいったことなどを称賛し、「できた」という自信をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分やクラスの友達が作ったもののよさやがんばりに気付いている。㊦ ☆年長児が楽しく遊べるように、繰り返し試しながら、ルールを変えたり、遊ぶものを工夫したりしている。㊦ ☆友達と協力して、年長児と進んで関わり楽しもうとしている。㊦
<p>四 秋 の 思 い 出 い っ ぱ い (3)</p>	<p>【小単元の目標】自分の秋を振り返り、一人一人の思い出を作品に表すことで、紹介することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の思い出を振り返り、発表し合う。(1) 【あのねタイム】 ・自分の秋の思い出をファイルに整理したり、飾ったりする。(1) ・自分の表現した秋をカードに書いて紹介する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで書きためてきたカードを見て、思い出を振り返られるようにする。 ○自分の秋を振り返り、一人一人の思い出を作品や言葉に生かし、表現するよう声をかける。 ○自分が作った作品を活用させ話すときに役立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆秋の楽しかった思い出を進んで伝えたりしようとしている。㊦ ☆秋の楽しかった思い出を自分の作品や言葉で表現しようとしている。㊦ ☆秋の自然を使って、楽しむことのできた自分に気付いている。㊦

6 視点について

〈視点1〉学習意欲を喚起する手立ての工夫

(1) 【子どもの思いや願いを実現する体験活動の充実】

緑町公園や西千葉公園での秋を楽しむ活動

春、夏と学校探検や公園探検を経験してきて、子どもたちは、秋での探検を楽しみにしている。また、子どもたちは、自然や虫や草花などの生き物に興味をもっているため、四季の変化に気付き、季節のよさを実感していくことが期待できる。そこで、一人一人に諸感覚を使って秋を楽しむ活動を十分に味わわせ、その子なりの秋の感じ取り方を大切にすることで、思いが深まり、秋のよさに気付くことができるようになる。そのために、春や夏に行った校庭探検の様子を思い出しながら同じ場所に探検しに行く。そのことで春から夏の頃とは違う自然の様子に気付いたり、秋ならではの遊びを見つけたりすることができる。また、探検中に落ち葉や木の実などを使って遊ぶことが予想されるので、あらかじめ必要と予想される道具や材料をもって探検し、必要に応じていつでも使えるようにし、活動を広げていきたい。探検後には、秋の自然を使って遊んだり、作ったりするのに必要な材料

を集めるために目的をもって2度目の探検に行く。繰り返し、探検することで「もっと見つけたい。」「もっと集めたい。」など意欲が高まり主体的に活動することができる。また、帰ってきてからは、拾ってきた材料を使って自分の作りたいものを工夫しながら作る活動を通して、子どもの思いや願いを実現させていきたい。

子どもの思いや願い、見つけたことでの気づきを表出できるような学習カードの活用

公園探検や秋の実を使って遊ぶ活動後には、見つけたことや感じたことを振り返るのに「見つけたよカード」を活用する。カードには、言葉では伝えづらいことを絵にしたり、友達と比べながら話をしたりして気付いたことを忘れないように記録する。記録したことを振り返りの時には見返して、自分の言葉で表現できるようにしたい。また、学習中には、友達と相談したりするのに「あのねカード」を活用し、話すのが苦手な子どもでも、友達と相談し合うのに使えるようにする。そのことで学び合う際に、意欲的に友達と交流することができる。と考える。

魅力的で夢中になる学習材の活用（どんぐり）

秋になると子どもたちは、校庭や近くの公園からたくさんのどんぐりを拾ってくる。緑町小学校の校庭にもマテバシイやシラカシのどんぐりの木があり、休み時間には、いっぱいどんぐりを拾って、たくさん集まると大きさや形、色などを分けたり、並べたり夢中になって遊ぶ姿が見られる。また、秋となかよしの学習が終わった後にも、机の中にしまったり置いたり、下駄箱に置いてあったりと子どもにとってどんぐりは、魅力的な秋の遊べる木の実として、学習材としても学びが多く、価値があると考える。そこで、子どもの夢中になるどんぐりを使って、思いや願いに沿った体験活動を充実させることで学習意欲が高まり主体的に学ぶことができる。と考える。

(2) 【自分の学びを実感する「振り返り」の工夫】

本単元では、小単元ごとに体験活動を取り入れ、子どもの思いや願いの実現に向けて活動していく。活動の中で子どもたちは、「落ち葉の上を歩くとガサガサ音が鳴って楽しいよ。」「どんぐりにもいろいろな種類がありそうだなあ。」など様々なことに気付くだろう。その気づきを確かなものにするため振り返りを毎時間設定していく。その振り返りの中で、子どもが自分の学びを実感するためには、見通しをもって学習し、自らの課題に向けて主体的に活動する中で問題解決できた時の満足感や達成感を味わうことが必要である。と考える。そのために「振り返り」の目的をしっかりと意識させ、工夫していく。具体的には次に示す通りである。

見通しをもつための前時までの振り返り

学習の導入時に課題をつかむために前時のことを想起させ、本時での学習課題をつかませる。そのことにより解決の見通しをもって主体的に学習に向かうことができる。と考える。また、これまでの学習の様子が分かるような掲示物や資料、学習の流れが分かるような板書の工夫など視覚的に分かるようにする。

学んだことを確認し、次につなげるための振り返り（あのねタイムの活用）

- ① 学習の最後には、振り返りの時間を設ける。分かったことや次に解決したいことなどその時間の中で自分について力を振り返ることができるようにするために、学習カードを工夫する。
- ② 動したことを素直に言葉で表現できるようにするために、表現の場を意図的に設定する。また、友達との交流の仕方を学んだり、伝えたいことを自分の言葉で話したりすることができるようにするために、「あのねタイム」を設定し、よりよく表現できるような活動を積み重ねていく。

(3) 【思いや願いの実現に向けた支援の工夫】

小単元2の「見つけた秋で作ったり遊んだりしよう。」では、集めてきた秋の木の葉や木の実などを使って自分の作りたいものを考え、作っていく活動がある。活動中は、「どんぐりに穴をあけたいな。」「どんぐり同士をくっつけたいな。」など普段使わないような道具が必要になることが考えられ

る。そこで安全に気を付けて活動できるような見守りや、自分が思っているように道具が使えない時の支援をしていただけるように学校とつながりのある地域の方をお呼びする。学習中、作り方のコツを教えてもらったり、励ましの言葉をかけていただいたりして、名人さんとの関わりで技能を身に付けるだけでなく、自分の思いや願いを実現するために名人さんとの対話を通して関わりを深め、自分の願いに向かって一層主体的に対象に関わっていくことができると思う。

〈視点2〉問題解決に向けた思考力を育む指導の工夫

(1)【子どもの思考をつなげる多様な学習活動】

共通な思いや願いをもつ子ども同士でのグループ編成

拾ってきた秋の実を使って遊んだり、遊ぶものや飾ったりするものなどの製作活動をしていく。活動の中では、自分の思いや願いを膨らませながら作りたいものを決めて試行錯誤しながら活動に没頭していくと考える。作っていくうちに「ぼくのどんぐりゴマは、よく回るんだよ。」とこだわりをもっていく。そのことを生かして、本時ではさらに子どもがもっとやりたいと夢中になる素材で遊ぶおもちゃを作って遊ぶ活動を繰り返し行う。また、その際に、作って遊ぶことの思いや願いが同じ友達同士でグループを編成することで、同じ素材を使うことで友達とも競い合ったり、教え合ったりと自然と交流も生まれるだろう。同じおもちゃ同士でグループを編成することで、「作る・比べる・試す・工夫する。」ことを友達と関わりながら、お互いの気づきを共有することができるだろう。また、問題意識も生まれ、見通しをもちながら「もっと回るこまが作りたくないな。」「〇〇さんのようにどんぐりの数を増やしてもバランスの取れるやじろべえをつくりたくないな。」などこれまで学習してきたことを生かしながら自分の作りたいものを作り、友達と関わる中で思考を働かせたりし、新たな気づきを生み出していくことで気づきの質を高めていけると考える。

年長児を招待し、目的意識・相手意識をもった自主的な活動へ

自分たちの力で遊びを創ったり工夫したりする楽しさやおもしろさを実感した後は、「楽しいおもちゃができたよ。」「遊び方のコツが分かったから誰かに教えたいな。」と意欲が高まると考える。その思いや願いを生かして、相手意識をもった自主的な活動になるように「あきいっぱいワクワクランド」に年長児を招待することを想定している。ここでは、年長児が楽しく遊ぶことができるように遊び方を変えたり、遊びを共にする中で遊び方やルールなどを分かりやすく説明したりする活動を通して、年長児のことばや表情・遊びを楽しむ姿などから自分の成長に気付くようにしたい。

(2)【子ども自身の言葉を引き出すような言語活動と学び合いの充実】

活動の中で、子供たちは、試行錯誤を繰り返しながら、秋の活動に夢中になることで「～を見つけた。」「～ができなくて困ったよ。」などの気づきをもつ。そこで、体験中にはその気づきを子ども自身の言葉として引き出すようにしていきたい。答えを代弁することなく子ども自身で考えることを促すことで、子どもの思考力・判断力・表現力を育むことができると思う。また、友達と交流する際には、子ども同士のつぶやきを教師が繋げることで、自然と交流するような「あのねタイム」を設定する。加えて、友達の話と自分の見つけたことを比べながら聞くことを第一に、話の内容が分かったうえでやりとりができるような「あのねカード」を活用し、子ども同士が進んで関わられるようにしていきたい。友達の話聞いて「～すればできそうだな。」「〇〇ちゃんから教わってうまくいかなかったところがあったよ。」などのように、一人では、気付かなかったことやできなかったことなども友達と協力し合ったり、学び合うことで新たな気づきが生まれたり、自分との関係や対象同士の関連に気付いたりし、一人一人の学びの質を高めることができるだろうと考える。

7 本時の指導



(1) 目標

どんぐりを使って、遊ぶものを工夫して作ったり遊んだりする活動を通して、身の周りの自然物を使って、その面白さや自然の不思議さに気付くことができるようにする。

(2) この時間の目指す子どもの姿

どんぐりを使って、遊ぶものを工夫して作ったり、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(3) 展開 (16/26)

時間	学習活動と内容	教師の働きかけ (○) 評価 (☆)
0	<p>1 前時までの振り返りをし、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりごまの持つところが長かったから短くしてよく回るこまをつくりたいな。 ・どんぐりの種類を変えてフエをつくってみたいな。 ・ふねに水が入らないように削り方を工夫するよ。 ・もう少しバランスのとれるやじろべえにしたいな。 	<p>○前時の様子を想起できるよう、写真を提示したり前の板書の内容を紹介したりする。</p> <p>○自分が今日やりたいことの見通しがもてるように学習カードを見るよう声をかける。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">つくったおもちゃでもっとたのしくあそぶにはどうしたらいいかな。</div>	
7	<p>2 名人さんの紹介をし、作ったり遊んだりするときの約束を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中に支援していただく、地域名人さんを知る。 ・安全に気を付け、製作をしたり、遊んだりする。けがをしたら救急コーナーへ行く。 ・工夫して楽しいことを見つけたら友達に教えてあげたり、声をかけあったりして遊ぶようにする。 	<p>○名人さんの紹介や活動の約束は、子どもたちが安全に活動できるように、時間に配慮しながら確認する。</p> <p>○名人さんには子どもの発想を大切に支援していただけるよう、あらかじめお願いしておくようにする。</p>
10	<p>3 遊ぶものを工夫して作ったり遊んだりする。 ※活動内容は児童の思いや願いに合わせて展開する。</p> <p>【活動例】</p> <p>どんぐりごまグループ</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>持つところが曲がっていると良く回らないからまっすぐさしたいな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>名人さんに相談したら穴をあける時に真ん中になるようにペンで印をつけるといいと教えてもらったよ。</p> </div> </div> <p>【あのねタイム】 話合いの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようじの部分をつまんでひねるように回すと良く回るよ。 ・友達とどちらが長く回るか競争すると楽しいよ。 <p>やじろべえグループ</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>うまくバランスがとれなくて指から落ちちゃうな。どうしたらいいかな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>友達がどんぐりの大きさをかえたらどう？とってたから同じ大きさにしたらできたよ。</p> </div> </div> <p>【あのねタイム】 話合いの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの大きさを同じにするとバランスがとれたよ。 ・指の上でバランスをとらずに机や台の上でやるとくるくる回って楽しかったよ。 	<p>○友達とおもちゃで遊んでは、作り直すといった活動を繰り返し行えるように、おもちゃの種類ごとに、材料コーナーや修理コーナーを設置しておく。</p> <p>○材料コーナーには、子どもたちの思いや願いが実現できるように各おもちゃに必要な材料をあらかじめ聞き出し、用意しておく。</p> <p>○製作に困っている子どもに対しては、製作のヒントになる掲示物や本をアドバイスコーナーに用意しておく、自由に手に取って参考にできるようにする。</p> <p>○子どもたちが発見した気付きについては、一緒に共感したり活動したりして見取るようにする。</p> <p>○おもちゃ作りの際、何度作り直しても思い通りにできなかつたり、うまくいかず原因が分からなかつたりする子どもに対しては、成功した友達や名人さんに相談するように声をかけるようにする。</p> <p>○作ったおもちゃに満足してしまった子どもには、新たな工夫を発見させたり、さらに友達と関わったりするよう声をかけるようにする。</p>

どんぐりぶえグループ

なかなか音が鳴らないな。友達はよく鳴ってるから教えてもらおう。



〇〇ちゃんが下唇にどんぐりを当てたら鳴るって教えてくれたよ。

【あのねタイム】話合いの姿

- ・下唇にどんぐりを当てながら優しく吹くと音が鳴るよ。
- ・どんぐりの種類を変えると音の高さが変わったよ。

どんぐりぶねグループ

水が入らないように浮かせたいな。どんぐりを半分ぐらいまで削ってみよう。



友達と沈まない船をつかって競争したら楽しいよ。息をふくと動くよ。

【あのねタイム】話合いの姿

- ・削り方が浅いと船が浮きづらいから半分ぐらいまで削るようにするとよく浮くようになるよ。
- ・息を吹きかけると前に進んで楽しいよ。

- 35 4 見つけた遊びの楽しさを振り返る。
- ・活動して気付いたことや友達や名人さんに教わったことを振り返りカードに書く。
 - ・次の活動でやってみたいことを書く。
 - ・遊びの楽しさを紹介する。

<次時へのつながり>

じぶんたちがつくったおもちゃでねんちょうさんがたのしくあそべるようなあそびばをつくりたいな。

- 45 5 地域の方に挨拶をして片付ける。
- ・本時までの感謝をこめて、全体で挨拶をする。
 - ・身の回りの片づけをする。

☆秋の自然物を使って、自然や季節に関わる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。(㊦)

○見つけたことや工夫したことを、発表させることによって気付きを深められるようにする。

○伝え合う活動の中で、より分かりやすく伝えられるよう、実際に実演させながら発表できるように促す。

○気付きを共有する為に、友達が見つけたことをみんなで確かめたり、見直したりするように助言する。

○粘り強く取り組んだ姿や子どもの気付きに対しては、失敗したとしても称賛し、自信をもたせるようにする。

☆進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。(㊧)

○活動後すぐに感じたことや思ったことを書けるよう、振り返りカードを用意しておく。

○振り返りカードは落ち着いて書けるように、机を用意する。

○書いている気付きや分かったことなど書いている子をあらかじめ見取り紹介するようにする。

○児童を集め、地域の方には一箇所に集まって並んでもらう。

(場の設定図)

